

ロープガイドライン

NPO 法人プレーパークむさしのは、日々の子供達の動きに合わせて、遊び場内のデザインをしながら、子供達がのびのび遊び・過ごせる場をつくっています。そのため、主に木材やロープをその素材として手作り遊具を設置しています。遊び場スタッフが作る遊具なので、作り変えることが可能です。手作り遊具を設置することで、子供の遊びの幅が広がる半面、安全・安心の面についてはより注意が必要となり、遊び場スタッフが点検・確認を日々実施しています。ロープ遊具はロープ基準を作成し、スタッフ間で継続的に見直し、検討を実施しています。

1、ロープの種類

<使用しているロープ>

標準仕様 クレモナ（ビニロン）ロープ 6mm～16mm

<クレモナロープの特徴>

- ・ほとんど腐食しない化学繊維。
- ・柔らかく、手触りが良く適度なざらつきがある。
- ・新品は伸性がある。
- ・水にぬれても内部まで硬くなりにくい。

2、ロープ遊具について

<設置について>

原則として、木の太さや状態を確認し、枯れ木や腐食していない木に設置する。

高所設置の場合は、登ること自体にハードルを設ける。

<点検の種類と頻度>

①日々の点検

点検表記入、結び目や擦れ具合などを見て、触って、確認を行う。

②定期的な点検

長期休暇時に遊具撤去を行い、設置遊具を外した後は、日々の点検同様に確認を行い、場合によっては、ロープを切り、ロープ内の状態を確認する。

③養生について

ロープと樹皮が痛まないようにロープを回す樹木に養生布を巻く。または、樹木に養生布を巻くのが困難な場合は、ロープ自体に養生布を巻く。

④金物の使用について

ロープ同士の擦れ(摩耗)を防ぐためにカラビナなどを使うこともある。

⑤ロープの交換について

点検時などに切って、ロープの中を確認し、内部まで硬くなっているものに関しては破棄する。

3、ロープの安全管理について

<リスクとハザードについて>

遊び場スタッフは、遊び場内の危険を「リスク／ハザード」の2つに分け、リスクは残し、ハザードは排除することを基本としながら、プレーパーク内の安全確認・点検を日々実施しています。

リスク（自ら挑戦する危険）は目に見えにくい危険に気づく力を鍛えることにつながるため残しますが、ハザード（予測の付かない危険）は、命にかかわり重大な事故につながりうるため取り除いています。

ロープ遊具にもこのことが当てはまり、ロープ自体の劣化、切れ目ができていないか、結び目がほどけていないかを確認しています。また、ロープを結ぶ木の状態も確認しています。

<遊び場でのロープの管理方法、扱い方>

遊具設置以外でも、子どもの遊びの広がりの中でロープを使用する場面があります。子どもが扱うロープに関しては、子ども達とのやりとりを通じて、その時々で必要なものを選び、注意深く見守りながら取り扱っています。